



発行 KOA 森林塾 (事務局) 0265-70-7065
 編集 早川清志
 題字 島崎洋路

『測った、切った、出した』

Bコース夏の部森林塾報告

イントラ宮崎の自己紹介で、故郷広島の方が今回初めて森林塾に参加してくれて嬉しいですよ。その最も遠い広島からは松谷さん。自動車会社にお勤めだそうで、奥さんと一緒に馳せ参じてくれました。ご自分で所有されている山はお名前のとおり、ヒノ



野口、大野班の玉切り練習。保科先生のチェックがはいる

キでしょうか。休日にご夫婦で山仕事、なんと羨ましいことでしょう。このご夫婦をはじめ十七人の方が参加してくれました。

信州の涼しさを期待してお見えになった方もいたかもしれませんが、でも一年で一番暑い季節、やはり昼間は三十度を超え、しかも慣れない山中、大変にお疲れになったことと思います。

二泊三日はあっという間に終わってしまいました。測樹をして、施業方針を決め、チェーンソーを動かして切り倒す。枝を払って玉切りし、引つ張り出す。この一連の流れの中でのポイントを押さえていただけたでしょうか。三日間では、そのエキスだけしか勉強できませんでしたが、保科先生が言われた「何か」を持ち帰っていただけたでしょうか。森林塾は「何か」を提供できたでしょうか。たった三日間でしたが、これでお付き合いが終わりではなくて、始



薄暗いヒノキ林で原さん直径を測る

まりです。これから何らかの形でお付き合いをさせていただければと思っております。島崎先生の総評のお言葉です。

森林塾で持ち帰っていたアイデアであるう何かを使って、これからも山や木と少しづつでも付き合っていくてくれたらとても嬉しいことです。もう一度三日間の復習をしていただき、疑問や質問等、なんでもお寄せください。



是非「何か」をお持ち帰り下さい



松谷さんの樹高測定。片目はつぶらなくても良いですよ

- 今回の内容**
- Bコース夏の部**
- 8月1日(水)**
- 10時 島崎先生の山小屋に集合。事務局あいさつ。講師の先生方の紹介とあいさつ。イントラクターと塾生の自己紹介。オリエンテーション
 - 11時30分 直径巻尺づくり
 - 12時 昼食
 - 1時 車に分乗して伊那市中央の小坂山林へ。班に分かれて測樹開始。林齢は両先生が数えて二十四年生と決定
 - 2時30分 測樹終了。小屋に戻る
 - 3時 班ごとに調査表の作成に入る。ここが肝心なところです。理解していただけででしょうか
 - 4時20分 施業方針についての島崎先生の説明
 - 5時10分 終了。休憩
 - 6時 交流会開始。いつもの



密度の計算は完璧でしょうか

- 7時30分 一応終了。三々五々ミルクに帰る
- 8月2日(木)**
- 8時45分 小屋集合。ミルクの朝食が少し遅れて皆さん大忙し。日程説明の後、島崎先生による施業方針の説明と決定。保算木マーク法により、残す木にテープを巻き間伐を行なうこととする(後述)
- 9時 小屋の横でチェーンソーの使い方説明、玉切りの練習。松谷さんと橋本さんはマイチェーンソー持参。
- 10時 分乗して中条、小坂山林へ。保科先生のなた、この使い方の説明の後、残す木にテープを巻く。班に分かれて伐倒の説明、伐倒開始

- 12時 昼食
- 相変わらずミルクのお弁当は量が多い。イントラ中村による「ぶり縄」の試技
- 1時 伐倒再開。各班四～五人のところ



江尻さん、赤(ヘルメット、ナタの鞘)と黒(地下足袋、ヒゲ)のツートンカラー



本当に普通のサラリーマンか? 江尻さん



ノリウツギはアジサイの仲間です

ントラが二人付くのでいいペースで間伐が進む
4時 現場終了。林道でいや違った、あれは実は国道三六一号線なので(イントラ藤原によるチェーンソーの目立て。後藤班はそれは済ませていたので毎日の手入れの説明
4時30分 終了。半分ほどの人がみはらしの湯へ。
6時30分 スタッフ坪木が会社でカレー材料を刻ん



見かけによらず身軽な鈴木さん



同じく鈴木さん、ひっぱりだこを操作

できてくれえました。ちょっと遅れましたがカレーも無事完成し食事会。昨日は自己紹介ができなかったのでカレーを食べながら始める。ピールの差し入れ(どなたか分かんなくてごめんなさい)大量にあり
7時30分 一心終了。しかし囲炉裏の周辺では延々と話が続いていた
8月3日(金)
8時30分 小屋集合。伐出の

9時 分乗して中祭、小坂山林へ。班で交代して伐倒と集材。集材は林内作業車(キヤトラ)とミニウインチ(ひっぱりだこ)戻る
11時30分 現場終了。小屋に
12時 保科先生の総評をお聞きし、昼食。研修の感想を書いてもらう
12時45分 小屋裏の日影自彊会林の界限で樹木分類。各班二十種類以上の葉を

採集してもらおう
2時 なたのこの手入れ
2時30分 鳥崎先生の総評、質疑応答の後、終了、解散。お疲れ様でした
 参加者/池上さん、江尻さん、大江さん、大月さん、岡田さん、神田さん、岸さん、工藤さん、佐藤さん、下島さん、鈴木さん、沼田さん、橋本さん、原さん、松谷さん夫妻、和辻さん



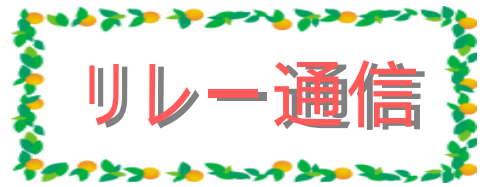
小雨の中、静かにカーニバルは始まった

次回以降の予定
 第8回 8月18日(土)
 伐出
 良い夏を過ごすことができたいでしょうか。まだまだ暑い日が続きますが信州はそろそろ秋風です。後半が始まります。
 講師/保科先生、鳥崎先生
 スタッフ/大野、後藤、椎原、中村、野口、平林、藤原、宮崎、坂野、早川

第9回 9月1日(土)
 林道設計
8時30分 鳥崎先生の山小屋に集合。長谷村の保科先生の(元)マツタケ山をお借りして作業道を設計し、歩道として開設する予定です。歩道つくりで一汗かいてください。
ワンポイントレッスン
「保残木マーク法」による今回の間伐
 測樹の結果、各班のデータはまちまちでしたが保残木マーク法により間伐を試みまして、現在の林齢は24です。36年後の林齢が60になった時にヒノキの生長曲線から

樹高を推定し、Srを17と設定して保残木の本数を決めるわけです。
 各班の測樹の結果と保残木数を表にしてみました。

班	区画 (m)	ha本数	平均直径 (cm)	ha材積 (立方m)	上層樹高 (m)	地位	Sr	林分 形状比	保残木 ha本数	保残木 区画内
後藤、椎原	20 × 20	2,050	12.9	167	12.0	18	17.6	93	780	31
藤原、宮崎	20 × 20	2,400	13.4	240	13.8	20	14.8	87	650	26
野口、大野	15 × 15	2,133	15.9	261	12.0	18	18.0	72	780	18
中村、平林	15 × 15	2,578	12.5	181	10.8	16	18.2	78	100	23



「楽しみにしています」 神田 靖子

私は福祉の関係のアルバイトや非常勤の職員として働いていました。仕事をしていても吸収することは多く自分自身を成長させてもらったと本当に思います。そしてすごく楽しかったです。しかしどこかでいつも揺れていたのも確かです。それは以前から木や土に触れないで、できたらいつもそしてこれから先も触れていられることがしたいな、とも思っていたからです。



が、小さい頃、祖母がほんの少し作物をつくっていた畑に祖母にくっついて行き土をいじって遊んでいた。虫とか土とか嫌がらないんだな」というようなことを祖母が言っていたのを聞き、「嫌がる人もそう言えはいるんだよね、わたしはこういいうことしてるの嫌じゃないし、むしろ落ち着くな」というようなことを漠然と感じたことを覚えています。これもまた小さい頃の話なのですが、小学校の授業のひとつに畑を耕し作物を育てるといふものがありますよね。私は、この時間が好きですと続けばいいのにと考えていました。おそらくこの頃から土と触れていた、自然と触れたいと思っていたんでしょうね。

しかしどうしたら思いを実現できるのかとずっと考えあぐねていました。そんな時、いま私の通っている学校の存在を知りました。そして今が正しいタイミングかもしれないと思い、この学校に4月から通いはじめました。

学校では野菜、酪農、養豚、養鶏、鉢物、切り花、植木の各コースに分かれそれぞれ実習を行っています。まず、私の在籍しているコースは植木コースです。樹木に関わりたいたいと思いこのコースを選びました。授業は植木の生産の実習が主です。

記念すべき「実習初日」は、というと植木を掘り、掘った植木を他の場所に移して植えるという作業でした。おかげでその時の帰りのバスと電車でその時は全く覚えていません。情けないことに日頃の運動不足がたたり、ヘトヘトに疲れ果ててしまったのです。でもこういう疲れはすこく心地よいものなんです。小さい頃プールに泳ぎに行ったあのような。その時以来の心地よい疲れと言ってしまうのは大袈裟かもしれませんが。

これ以外で四月からの三ヶ月間、学校での私の印象に残っていることを少し書いてみたいと思います。『道具購入』花鋏み、枝切り、のこぎりの三点セットを購入しました。この三点セットを腰にさげて(少し、たらし気味に)歩くと何もできないのに、何かできてしまう気にさせられてしまうから不思議です。過信しないように気をつけなければいけません。これらの手入れ(研ぎ石で研ぐ)も教わり、手の空いた道具に対して次第に愛着が湧いてくるものです。

『灌水』育てている苗や、ポットの鉢に植えてある植木、種をまいたばかりの鉢には少なくとも一日一回、水やりをします。『水やり三年』という言葉があるそうで、水やりにも経験がものをいうようです。このくらい湿っていいば、軽く水をあげればいだけ、この状態でこの天気ならばたつぷり水をあげなければならぬか。

割に生長しているものには、水圧はしとしと雨ぐらいがいいだとか、まだ挿し木をして間もないものには倒れてしまわないようになり弱い水圧で、だとか。今の私の場合は念には念を、と諸先輩方の倍以上の時間をかけてどんなものにもたつぷり水をあげている状態です。一人前になるのに私の場合は何年かかるのでしょうか。

『脚立の上りかた』木に寄り掛かるようにして脚立を立て掛けると安定するそうです。そして万が一、脚立が倒れた際につかまれる枝を見繕っておくことを教わりました。考えるに恐ろしいことですが、実際ありうることで、ほんね、私が脚立に初めておぼり梅の木を剪定したのは先輩たちも恐れおののいていた、強風吹き荒ぶ春の日でした。初回にしてこのような状況を経験しこれから先恐いものなしです(笑)。

『木について知る』自分がいかに木について何も知らなかつたかということを知りたくなります。「木が好きで木について学びたい」だなんて言っていた自分が恥ずかしくなります。目下の私の課題は木の名前をひとつでも多く知ることです。最近のことなので、花が終わり緑の葉がきれいな木を指差し、先生に何という木かと尋ねたところ、「梅の木」という答えが返ってきて少し落ち込みました(笑)。

一本一本の木をよく観察していくと、一見同じものに見えても葉の形が微妙に違っていたりしておもしろいんです。そしてこんな風になっている木を見ることができると驚沢な時間をすごしているなあ、とつくづく思います。

と、こんな三ヶ月を学校で送りました。私にとつて新鮮で楽しい毎日でした。

さて私が初めてKOA森林塾のことについて知ったのはテレビで拝見した時です。昨年のいつ頃でしょうか。鳥崎先生がすこく気持ち良さそうに雑木林の中を歩いていらつしやるように私には見えて無性に「行ってみたい!」「先生にお会いしてみたい!」と思

いました。しかしこの時は塾の連絡先も分かりませんでしたし、塾で参加者を受け付けているかどうかも分かりませんでした。その後たまたま手

にし、読ませて頂いた浜田久美子さん著の『森をつくる人びと』に塾のこともあってビックリ!そしてこれは行くしかないと思つたのです。しかし日々の生活にバタバタと追われ塾のほうに連絡をとることができませんでした。

やっと一息つけたのは七月に入ってから。連絡をとったところ、「募集は締め切つてしまつたけれども今回は定員に満たないので大丈夫です」とのお返事を頂き、めでたく参加することができました。

とても楽しみです。「どのようなたちにお会いできるのかな」とのようなが待ち受けているんだろっ!」

私は、自分の地元である岐阜県の飛騨地方の森林組合に勤務しております。平成五年秋に転職しました。そのきっかけとなつたのは、当時の新聞記事にたまたま森林組合と

「リレ一通信」

「KOA森林塾」に参加するにあたって

沼田 克也

私は、自分の地元である岐阜県の飛騨地方の森林組合に勤務しております。平成五年秋に転職しました。そのきっかけとなつたのは、当時の新聞記事にたまたま森林組合と

「リレ一通信」



いつもの現状が取り上げられていて、高齢化・後継者不足が深刻な問題となっていて、県も若年後継者育成のために新規採用をしている組合に助成金を出しているというものでした。

自分が山にかかわった経験といえば、小学生のころ父親に連れられて持ち山(といつてもわずか三反程度)へ行き、雪によって倒れている木を起こす作業を少し手伝った程度で、その後は山の境界すらうろ覚えの状態となっていました。特別に山や森林というものに思い入れがあったわけでもなく、ただ単純に、これだけ若い者が不足しているというのであれば自分がその世界に入れば十年もすれば天下がやってくるのではないかという誠に浅はかな、甘い思いからでした。

実際に組合に就職するとき、いろいろと面倒を見てくださった方々(現在の上司等)も、それまでに何人かの人が入ってはくれたものの、

短期間で去っていった(特に若い年齢層)こともあって『無理はしなくていいから本当に自分で続けられるかどうか判断してください』とのことでした。

もともとの田舎者で山や田畑に囲まれた地域に育ってきたのですが、やはり山での作業というものは、まず歩くことから大変にづらい仕事でありました。しかし、現場の先輩方(自分の親と同世代)をはじめとして周囲の方々にいろいろの意味で支えていただいたお陰もあり、何とか続けられることができました。その後、組合の諸事情もあり、三年前からはいわゆる「事務所」での勤務となり現在に至っております。

私にとっては、この『移動』が大変に大きな転機となりました。それまではどちらかといえば組合に入る時点での『つかは自分の天下になる』という思いで、とにかく目の前にある与えられた仕事をただ単純に言われたとおりにこなすということ

がメインで、それが正しいことなのかどうかということや、森林組合がどういった立場にあり、林業がどのような状況

に置かれているのかなどということは、ほとんど全くといっていいほど頭にはありませんでした。

ところが「事務所」、いわゆる管理的なサイドに立ったときに、大きな矛盾や疑問等現実の状況というものに悩まされることとなりました。そして、自分の当初の思いがいかに甘く、はかないものであるかということも思い知らされました。

鳥崎先生の著書に記されている森林組合の実態というところを読んで、まさしく、頭に重い鉄の玉を落とされたような思いでした。ただ、本当に言い訳となってしまうのが、組合に籍を置く職員やその家族のことをおもうと大きな不安を抱かせるようなことはできないため、仕事量の確保、採算性のことなどが先行してしまいつつとも安易な方向へと頼ってしまっているのが現状です。(現在は若年者が多数入ってくれているため、遅ればせながら意識改革等に取り組んでおります)

今回、上司からこの森林塾の話聞き、申し込みをさせていただき、誠におはすかしことですが、はじめて「山造り承ります」を読ませていただきました。プロローグから私にとっては重い課題を突きつけられたような思いでした。森林組合に籍を置いてま

だ八年足らずではあります。が、いつたい自分は今まで何をしてきたのか、また何をしようとしているのかと本当に考えさせられました。

ほとんど皆無といつてもいいほどの知識や経験しかない自分が、偉そうに現場の職員にあれこれ指示をしていられるかと思うと自分自身に腹立たしく情けない思いになりました。もっともつと貧欲に様々な勉強をする必要があることを実感しました。

こんな私が言うのもどうかと思いますが、現在、私が危惧していることのひとつとして、国や県などのいわゆる行政の森林整備に対する事業のあり方についてです。その地方、地域によって様々な特性があることは明確なはずであるにもかかわらず、単一的な考えで、割り当てといった形で施業方法や配分がなされていることです。ただ予算消化や事業地確保がされればよいというような感じがしています。

中途半端に森林・林業というものに携わっている自分自身をもう一度見つめなおし、自分の現状を打破するとともに、矛盾や疑問に感じていることの解決の糸口を見つけてきつかけとして、是非ともK O A森林

塾での講義・実習・実践をしつかりと身につけられるよう本当に楽しみにしております。何卒よろしくお願ひします。

コラム

空の色や雲の様子、風の感じは秋の気配なのに・・・

コンクリートの箱の我が家は、昼間はとてとても暑くて、休日在家でごろごろする気にはなれなくて、つい出掛けてしまふ。この間の日曜日、も梅池・白馬大池間のトレッキングにいつてきました。山はまだ雪がけっこう残っていて、高山植物も開花時季が揃ってしまったらしく様々な花を楽しむことができました。晴天で日差しは強かったのですが、風が爽やかで快適でした。

近年は、スキー場のリフトやゴンドラが夏も動いている、気軽に避暑に山に行けるようになったので、山麓の散策を目的に観光に行っても、「あのスキー場の上まで行くか」と思います。そう、我が家の自家用車には常にトレッキングシューズが載っているのです。そして出掛ける時には、コンロとコーヒーや紅茶、カップに凶鑑にカメラの入ったデイバックを連れて行くのです。

皆さんも自分のお気に入り道具とお茶セットを専用デ

投稿大歓迎。ご意見、ご質問、ご要望、事務局まで。
TEL 0265-70-7065
FAX 0265-70-7994
E-mail:
ki-hayakawa@koanet.co.jp
sh-sakano@koanet.co.jp
mi-tsuboki@koanet.co.jp
携帯:0902-53-26375(開催日)
H.P.http://www.koanet.co.jp

投稿大歓迎。ご意見、ご質問、ご要望、事務局まで。
TEL 0265-70-7065
FAX 0265-70-7994
E-mail:
ki-hayakawa@koanet.co.jp
sh-sakano@koanet.co.jp
mi-tsuboki@koanet.co.jp
携帯:0902-53-26375(開催日)
H.P.http://www.koanet.co.jp

おわりに

まだまだ暑い夏が続いていますがいかがお過ごしでしょうか。今年はラ・ニーニャ現象とダイポール現象がともに起こっていて、これらにより全国的に猛暑、少雨だそうです。信州でも七月初め以来まとまぬ雨が降っていません。スイカやトマトは美味しいのですがナスは硬く、キュウリは枯れかかっています。庭木も葉っぱが枯れてしまい水やりが大変です。薪ストーブに火を入れる日が待ち遠しい。(半分本音)

「九月後半にはもう焚きはじめなんだよ」とは長谷村にお住まいの保科先生。旧盆を過ぎれば信州はもう秋ですが、さて今年はいかに。